

令和5年12月28日

臨時記者会見資料

教育委員会 文化振興課
(担当 佐藤 22-9669)

1 件 名

史跡琵琶塚古墳整備事業の経緯と今後の対応について

2 内 容

史跡琵琶塚古墳（市内飯塚）は、将来的に隣接する史跡摩利支天塚古墳と一体的な保存と活用を図るため、国庫補助事業に採択され、平成30年度から令和9年度を事業期間として整備に着手しましたが、文化庁への現状変更申請・許可の手続きが取られていなかったことが、12月8日判明いたしました。

今後については、文化庁・栃木県の指導を仰ぎ対応してまいります。

3 これまでの対応（経緯）

- （1）12月8日（金）、栃木県文化振興課からの指摘により判明。
- （2）12月11日（月）、栃木県文化振興課へ今回の事情を説明、今後の対応について協議。
- （3）12月12日（火）、琵琶塚古墳の墳丘盛土工事を中断。
- （4）12月20日（水）、小型重機・鉄板など撤去完了。
- （5）12月25日（月）、26日（火）に、小山市国史跡琵琶塚古墳、摩利支天塚古墳整備委員会専門部会委員に対し、状況説明を実施。
- （6）12月27日（水）、文化庁訪問、謝罪、今後の指示をいただく。

4 今後の対応

文化庁・栃木県の指導に対応するとともに、地元説明をしてまいります。

5 問合せ先

文化振興課

電話 0285-22-9669 ※別紙資料あり

○琵琶塚古墳の概要

- | | |
|----------|---|
| (1) 墳 丘 | 全長124.8m、高さ（前方部）8.5m、（後円部）11m
周囲に内堀・中堤・外堀を持つ。埋葬施設は不明 |
| (2) 史跡指定 | 大正15（1926）年2月24日（昭和56年に追加指定あり）
指定面積 57,788.94㎡ |

○これまでの整備

昭和53・54年、平成2年に範囲確認調査

平成23年度 国史跡琵琶塚・摩利支天塚古墳及び周辺整備基本構想策定

平成24年度 国史跡琵琶塚・摩利支天塚古墳及び周辺整備基本計画策定

平成25～29年度

発掘調査・樹木伐採

平成30年度 国史跡摩利支天塚・琵琶塚古墳資料館開館

国史跡琵琶塚古墳整備基本設計策定

倒木が相次いだため、令和2年度にかけて残る樹木を伐採

令和元年度 国史跡琵琶塚古墳整備実施設計策定

令和2年度 整備工事のための仮設路設置

令和3年度 仮設路延長工事、墳丘修築盛り土

令和4年度 墳丘西側下位盛り土・芝張り、仮設路拡幅

令和5年度 後円部西側上位盛り土・芝張り

令和6～9年度の予定

残る墳丘部の盛り土、墳丘周辺整備

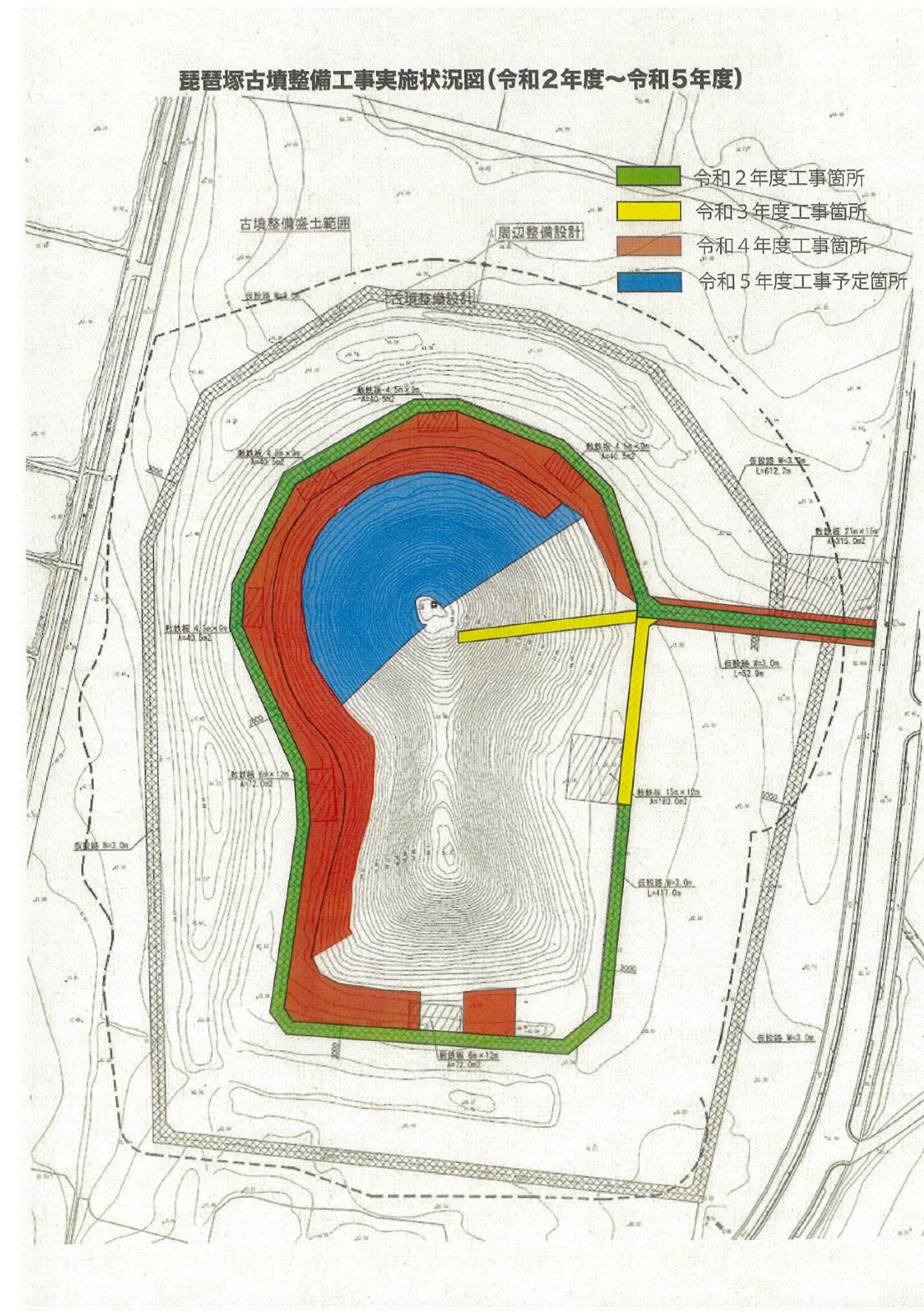


墳丘盛土施工状況(西から)

墳丘に盛土をし、その上から重機で施工



令和 4 年度までの施工状況

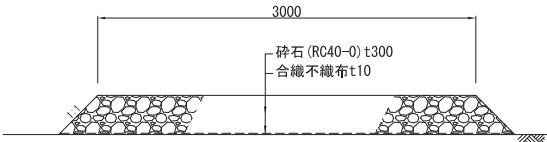


別紙1

工種	名称	規格	数量	単位	摘要
仮設工	仮設路	W=3.0m	1,082.1	m	
仮設工	仮設路拡幅		1,509	m ²	

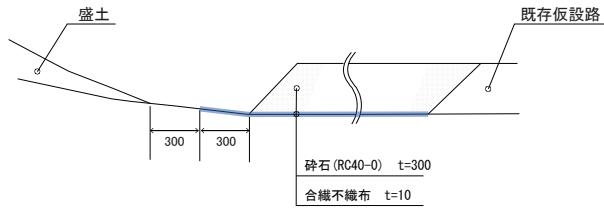
※仮設に用いる砕石は復元する中堤盛土に転用する。

仮設路



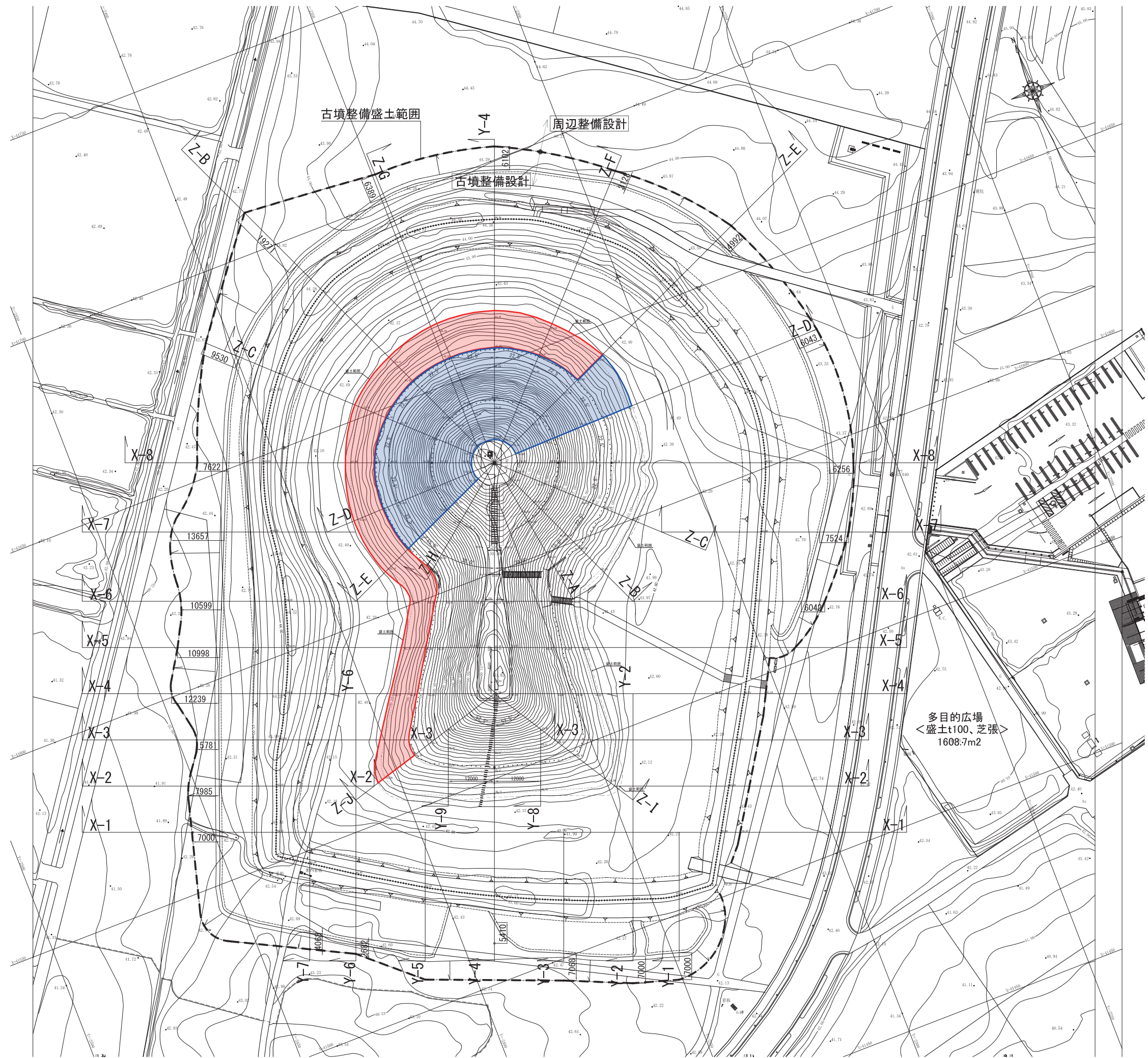
- 令和2年度施工箇所
- 令和3年度施工箇所

仮設路拡幅



- 令和4年度施工箇所

国史跡琵琶塚古墳整備実施設計業務			
工事年度	令和元年度		
工事箇所			
図面種別	仮設平面図		
図面番号	3		
縮 尺	1/1000 (A3)		
小山市教育委員会			
課 長		設計者	



- 令和4年度施工箇所
- 令和5年度施工予定箇所

国史跡琵琶塚古墳整備実施設計業務			
工事年度		令和元年度	
工事箇所			
図面種別		造成平面図	
図面番号		5	
縮 尺		1/1000 (A3)	
小山市教育委員会			
課 長			設計者

5. 墳丘土工法

墳丘の現状表土下には、浅いところでは深さ 10 cm 以内で遺物包含層がある。また墳頂部分では表土が失われ、遺構の盛土面が露出している。従って、建設機械が直接森入れることはできない。これらのことから、墳丘の盛土工法は、内堀面から建設機械（バックホウ）の届く範囲と、その上の部分により工法を区分して次のように設計した。

下位盛土

盛土工法は施工条件を考慮してバックホウ 0.45 m³級（山積）までの使用を許容し、締固めはタンパ・ランマによるものとした。

下位盛土の範囲は、右図のように使用機械の作業が可能な法下から 6.0 m とした。

上位盛土

盛土材の運搬は小車運搬とし、以下の計算により換算距離 40 m 以下とした。

前頁 A 水平距離 45m 高低差 11m
換算距離 $45 + 11 \times 8 = 133$ m
前頁 B 水平距離 30m 高低差 7m
換算距離 $30 + 7 \times 8 = 86$ m
前頁 C 水平距離 40m 高低差 9.5m
換算距離 $40 + 9.5 \times 8 = 116$ m
A・B・C の平均 111.6 m

盛土量は、下方が 2/3 以上を占めると考えられるので、換算距離は $111.6 \times 1/3 = 37.2$ m とみなし、積算区分の 40 m 以下を採用した。

上位盛土の使用機械は、BH 0.28 m³級（山積）とし、盛土を施した面上を移動する作業を想定した。また。締固めは下位盛土と同様にタンパ・ランマによるものとした。

